

2019年 3月 15日

公益財団法人 笹川記念保健協力財団
会長 喜多悦子 殿

施設名 公益財団法人筑波メディカルセンター

代表者 代表理事 志 真 泰 夫



2018年度ホスピス緩和ケアドクター研修助成
に係る報告書の提出について

標記について、下記のとおり報告いたします。

記

1. 研究・研修事業 2018年度 ホスピス緩和ケアドクター研修助成事業
2. 期 間 2018年 4月 1日 ～ 2019年 3月31日
3. 報 告 書
 - I 事業の目的・方法
 - II 内容・実施経過
 - III 成果
(上記 I ～IIIをA4縦・横書 6,000字程度にまとめる)
 - IV 収支報告
 - ①助成金の使途(人件費以外は領収書等の証憑書類を添付)
 - ②当該助成金に関わる部分の決算書「写」
(貴機関の全会計決算書ではなく、当該助成計上部分のみで可)
※決算期の関係で2019年3月15日(金)までに「写」を提出できないときは提出予定日を記入
(提出予定日 2019年 6月30日)
 - V 研修修了者報告書

以上

2018年度ホスピス緩和ケアドクター養成研究事業

筑波メディカルセンター病院 緩和医療科

診療科長 久永貴之

I.事業の目的・方法

1) 目的

本研究事業の緩和ケア専門研修においては、筑波メディカルセンター病院（以下、当院とする）での緩和ケア病棟における専門的緩和ケア研修を行う計画である。また当院緩和ケア病棟では積極的な地域医療機関・専門外来・緩和ケアチームとの連携を進めており、緩和ケアに必要な不可欠な連携についても研修が可能である。

これらの研修を通じて1年間で緩和医療専門医として必要な知識・技能の習得を目指すことを目的とする。

2) 方法

横須賀響子医師（以下横須賀医師）は2013年4月より東京都立多摩総合医療センター呼吸器内科にて呼吸器内科専門後期研修を行い、国立病院機構東京病院呼吸器センターでさらに研鑽を重ねた。これまでに多くの進行・終末期肺がん患者や慢性呼吸不全患者等の診療に当たってきたが、その過程において緩和医療の必要性を強く感じていた。そのため当院での質の高い緩和医療に関する研修を行いたいとの希望があり、貴財団の「ホスピス緩和ケアドクター養成研究事業」に応募した。

横須賀医師の専門フェローシップ研修の具体的目標として、緩和医療の幅広い臨床能力を身に付けることとした。研修年限は1年間とした。

3) 具体的な研修計画

○緩和ケア病棟研修

緩和ケア病棟における急性期の入院患者を対象として専門的な症状マネジメントやチームアプローチについて研修を行い、緩和ケア病棟における診療を会得することを目的とする。

さらに退院前カンファレンスや地域カンファレンスなどへ積極的に参加することで、地域や外来との連携について研修を行うことを目的とする。

II.研究事業内容・実施経過（資料参照）

○ 2018年4月1日～2019年3月31日（筑波メディカルセンター病院緩和医療科）

横須賀医師は筑波メディカルセンター病院に緩和医療科専門研修フェローとして勤務し、緩和ケア病棟の病棟医として、実際の臨床を研修した。指導医の下で64例(3月12日現在)のがん患者を担当し、専門的な緩和医療を経験することができた。

Ⅲ 専門研修の成果

横須賀医師は、平成31年4月から引き続きつくば緩和医療グループの臨床フェローとして筑波大学附属病院緩和ケアチーム医員として緩和ケアチームでの専門的な緩和ケアの研修を継続し、その後は亜急性期緩和ケア病棟や在宅医療での研修についても予定している。

資料1

平成30年 緩和医療科フェローシップ研修プログラム

年間

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
研修内容	筑波メディカルセンター病院緩和医療科研修											

週間

	月	火	水	木	金	土
午前	病棟 回診	病棟 回診	病棟 回診	病棟 回診	病棟 回診	月1-2回病棟
午後	病棟 多職種カン ファレンス	病棟 カンファレン ス	病棟 カンファレン ス	病棟 カンファレン ス	病棟 カンファレン ス	
夕方 月2回抄読 会						